

菌床作製の工程

培地の作成



○アラゲキクラゲ・タモギタケ・ヒラタケ・エノキタケ

- ・ミキサーでおが粉、米ぬかをよく混ぜ水を加えて含水率を65%程度にします。

○ハタケシメジ

- ・ミキサーでバーク堆肥、米ぬかをよく混ぜ水を加えて含水率を62～63%程度にします。

袋詰め



○5種のきのこ共通

- ・ポリプロピレン袋に1袋当たり2.5～3kgになるように培地を詰め、接種孔を2～6個ほど開けます。

滅菌・放冷



○5種のきのこ共通

- ・高圧滅菌の場合は培地内の温度が120℃に達して約40分滅菌、常圧滅菌の場合は100℃になってから4～5時間滅菌し、カビやバクテリアなどの害菌を殺します。
滅菌後は20℃で1晩放冷します。

接種



○5種のきのこ共通

- ・無菌状態で種菌を1培地当たり20～30ml接種します。

培養



○5種のきのこ共通

- ・温度23℃、湿度65%で培養します。

○アラゲキクラゲ

- ・菌床全体に菌糸がまん延してからさらに半月ほど熟成させます。

○タモギタケ・ハタケシメジ・ヒラタケ・エノキタケ

- ・菌床全体に菌糸がまん延すれば培養完了です。

きのこの発生工程

◎アラゲキクラゲ・タモギタケ

○棚での栽培

(1) 林内栽培



↓タモギタケの場合



- ・林内に棚を設置し、そこに菌床を並べます。
- ・棚の下面を除く5面を寒冷紗で覆い、日射を遮るとともに保湿性を高めます。
- ・菌床が乾燥しないよう、定期的に散水します。

↑アラゲキクラゲの場合

(2) 簡易施設栽培

- ・施設内に棚を設置し、そこに菌床を並べます。
- ・寒冷紗での覆いはしません。
- ・菌床が乾燥しないよう、定期的に散水します。



↓タモギタケの場合

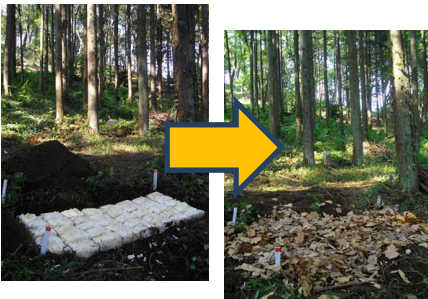


アラゲキクラゲの場合↑

◎ヒラタケ・ハタケシメジ・エノキタケ

○林床・プランターでの栽培

(1) 林内栽培



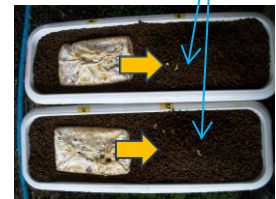
↑ヒラタケ、エノキタケの場合

- ・林床に菌床を頭が2～3cm出るように埋め込みます。
- ・菌床の上に2～3cm程落ち葉をかぶせます。
- ・菌床が乾燥しないよう、定期的に散水します。

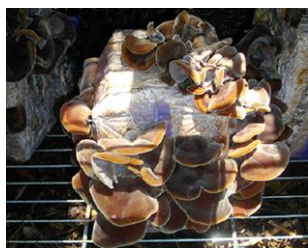
(2) 簡易施設栽培

- ・施設内にプランターを設置し、そこに菌床を並べます。
- ・プランターに菌床の頭が2～3cm出るように埋め込みます。
(施設内が土敷きの場合は同様にそこに埋め込みます)
- ・菌床上面に赤玉土をかぶせます。
- ・最後に落葉をかぶせます。
- ・菌床が乾燥しないよう、定期的に散水します。

赤玉土をかぶせたもの



アラゲキクラゲ栽培のポイント



○菌床作製

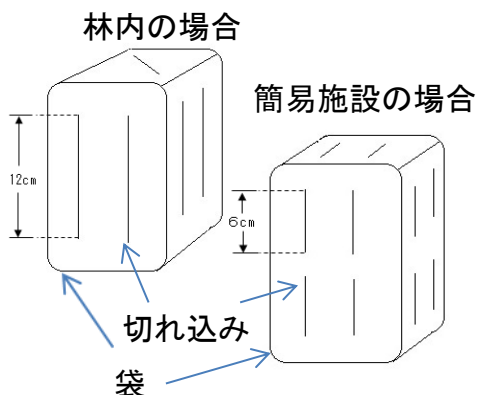
- ・広葉樹おが粉と米ぬかの混合割合を4:1にします。
- ・平均的な培養日数は約2ヵ月ですが、菌糸が全体にまん延してから半月ほど熟成するまで培養してください。

○発生操作

- ・発生面として、左の図のように菌床の設置面と袋とじ面を除き、4面に切れ込みをいれます。きのこはそこから発生します。
- ・3ページの「棚での栽培」のように棚に並べます。
- ・散水は林内の場合は2~3日ごとに約4時間連続散水、簡易施設の場合は1日2回約1時間連続散水してください。散水チューブ等を使うと簡易に散水できます。

○収穫

- ・発生操作から半月~1ヵ月ほどできのこが収穫できます。
- ・手でもぎ取らずに、カッター等で基部を残して切り取ってください。



※この切れ込みは試験場で検討し、最も収穫量が多かった方法です。

タモギタケ栽培のポイント

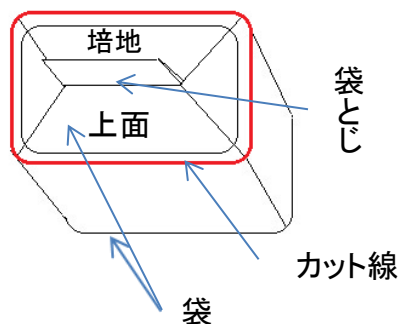


○菌床作製

- ・広葉樹おが粉と米ぬかの混合割合を3:1にします。
- ・平均的な培養日数は約1ヵ月半ですが、菌糸が全体にまん延するまで培養してください。

○発生操作

- ・発生面として、左の写真、図のように菌床の袋の上面のみカットしてください。きのこはそこから発生します。
- ・3ページの「棚での栽培」のように棚に並べます。
- ・散水は林内の場合は2~3日ごとに約4時間連続散水、簡易施設の場合は1日2回約1時間連続散水してください。散水チューブ等を使うと簡易に散水できます。



○収穫

- ・発生操作から5日~10日ほどできのこが収穫できます。